

2026 年 4 月入学
2025 年 10 月入学

北海道大学大学院工学院

博士後期課程

学 生 募 集 要 項

(一般入試・社会人入試)

北海道大学大学院工学院

2026 年 4 月入学

一般入試・社会人入試 募集人員

専攻	募集人員	専攻	募集人員
応用物理学	9名	環境フィールド工学	6名
材料科学	7名	北方圏環境政策工学	7名
機械宇宙工学	5名	建築都市空間デザイン	5名
人間機械システムデザイン	5名	空間性能システム	5名
エネルギー環境システム	5名	環境創生工学	5名
量子理工学	5名	環境循環システム	5名
		計	69名

2025 年 10 月入学

一般入試・社会人入試 募集人員

専攻	募集人員	専攻	募集人員
応用物理学	若干名	環境フィールド工学	若干名
機械宇宙工学	若干名	北方圏環境政策工学	若干名
人間機械システムデザイン	若干名	建築都市空間デザイン	若干名
エネルギー環境システム	若干名	空間性能システム	若干名
量子理工学	若干名	環境創生工学	若干名
		環境循環システム	若干名

【重要】志願者のみなさまへ

不測の事態が発生した場合、募集要項に記載の内容と異なる内容で試験を実施する可能性があります。入試方法の変更等は、下記本学院ホームページで公表しますので、随時確認してください。

北海道大学大学院工学院 入試情報 <https://www.eng.hokudai.ac.jp/graduate/examinfo/>

【外国籍の出願者への留意事項】

<ビザ/在留資格について>

○本学で外国人留学生として在籍するには、在留資格「留学」を取得する必要があります。在留資格「留学」の申請に必要な「在留資格認定証明書」は、申請から発行までに3ヶ月以上かかる場合もありますので、あらかじめご了承ください。なお、在留資格取得にかかる手続きについては、以下の本学 web サイトを参照してください。

日本語版：<https://www.oia.hokudai.ac.jp/cier/wp/wp-content/uploads/2024/11/f1f5158c300497954e4e73defa2dbde3.pdf>

英語版：<https://www.oia.hokudai.ac.jp/cier/wp/wp-content/uploads/2024/11/c9360fdf60a46b643cc435e347ec6948.pdf>

<安全保障輸出管理について>

○本学では「外国為替及び外国貿易法」に基づき「北海道大学安全保障輸出管理規程」を定めて貨物の輸出、技術の提供（人の受入を含む）について厳格な審査を実施しています。

○規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない又は研究が実施できない等の制限がかかる場合があります。

○安全保障輸出管理にかかる具体的な規制事項等の詳細については、以下の経済産業省のウェブサイト参照してください。

《経済産業省ウェブサイト》<https://www.meti.go.jp/policy/anpo/>

目 次

教育目標とアドミッションポリシー	1
2026 年 4 月入学試験に関する要項	
一般入試	2
1. 募 集 人 員	2
2. 出 願 資 格	2
3. 出願資格予備審査	3
4. 出 願 方 法	4
5. 出 願 書 類 等	5
6. 試験日及び選考方法	7
7. 合 格 発 表	8
8. 入学料及び授業料	8
9. e ³ プログラムについて	8
10. 在学期間の短縮による修了について	8
11. 長期履修制度について	8
12. 注 意 事 項	8
13. 個人情報の取扱いについて	8
14. そ の 他	9
社会人入試	10
2025 年 10 月入学試験に関する要項	
一般入試	11
社会人入試	12
長期履修の申請資格、申請手続き等について	13
「博士後期課程（社会人入試）志願者の研究業績等調書」記載例	14
指導教員及びその研究分野一覧表	15

教育目標とアドミッションポリシー

・教育目標

本学院の目標は、人類の長い歴史の中で営々と積み重ねられてきた学問の成果の継承と、それを基にした新たな科学・技術の創造を通じて、幅広い工学分野における基礎的素養と高度な専門的素養を身に付け、グローバル化や科学技術の高度化、研究領域の学際化等に柔軟に対応できる多様な知識と思考力、判断力、実務対応能力を持つ人材を育成することにあります。

・求める学生像

博士後期課程

- (1) 幅広い教養と科学・技術に関する広い視野からの豊富で高度な専門知識を有し、それらを活かして問題解決を図るために必要な優れた思考力および判断力を有する学生
- (2) 様々な考えを持つ世界中の人達との相互理解を可能とする高いコミュニケーション能力を有する学生
- (3) 上記の知識や能力の継続的な習得や向上に意欲を持った学生
- (4) 社会で生じている様々な問題について自ら考え解決するとともに、問題解決を通して新たな科学・技術を創造する意欲と実行力のある学生

上記の学生には本学院入学前に博士後期課程での学修や研究に必要な専門分野に関わる高い学力や倫理観を習得していることを期待します。

・入学者選抜の基本方針

本学院では、国籍を問わず、理工系の専門分野を卒業し、工学分野の修士、博士の学位を取得しようとする人物、並びに学部卒業及び修士修了後に社会で活躍しながら博士の学位を取得しようとする有為の人物を下記の入学試験で選抜しています。

博士後期課程入試(一般入試・社会人入試・外国人留学生入試)

博士後期課程入学試験では、語学及び専門に関する筆答試験と研究能力及び研究課題に取り組む意欲を評価する口頭試問により入学者を選抜します。また、専攻によっては、学業成績優秀者、企業などにおける研究開発等の業績が顕著な人物に対して筆答試験を免除しているところもあります。

2026 年 4 月入学試験に関する要項

一般入試

1. 募 集 人 員

専 攻	募集人員	専 攻	募集人員
応 用 物 理 学	9名	環 境 フ ィ ー ル ド 工 学	6名
材 料 科 学	7名	北 方 圏 環 境 政 策 工 学	7名
機 械 宇 宙 工 学	5名	建 築 都 市 空 間 デ ザ イン	5名
人間機械システムデザイン	5名	空 間 性 能 シ ス テ ム	5名
エ ネ ル ギ ー 環 境 シ ス テ ム	5名	環 境 創 生 工 学	5名
量 子 理 工 学	5名	環 境 循 環 シ ス テ ム	5名
		計	69 名

2. 出 願 資 格

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び 2026 年 3 月までに修士の学位又は専門職学位を授与される見込みの者
- (2) 外国の大学において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2026 年 3 月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2026 年 3 月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2026 年 3 月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和 51 年法律第 72 号）第 1 条第 2 項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び 2026 年 3 月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、(4) の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者及び 2026 年 3 月までに認められる見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）
「大学を卒業し、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」及び「外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」
- (8) 本学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2026 年 3 月 31 日までに 24 歳に達する者（以下「個別の資格審査による志願者」という。）

※2025 年 10 月入学を希望する者は、11～12 ページを参照すること。

※社会人入試志願者は、10 ページを参照すること。

3. 出願資格予備審査

《出願資格予備審査 インターネット出願登録期間》

2025 年 5 月 12 日（月）午前 10 時から 5 月 16 日（金）午後 5 時まで

《出願資格予備審査 出願書類の提出期間》

2025 年 5 月 12 日（月）午前 10 時から 5 月 16 日（金）午後 5 時まで

※郵送の場合も期間内必着とします。

「2. 出願資格」の（7）及び（8）による志願者は、願書を受理する前に出願資格に関する予備審査を行いますので、上記の期間内に「4. 出願方法」に従い、「①インターネット出願サイトへの登録」を行ってください。出願登録後、入学願書・履歴書を除いた出願書類（5 ページ参照）を用意し、下記「①出願資格予備審査提出書類」を添えて、「4. 出願方法」に記載の出願書類提出先に提出してください。

①出願資格予備審査提出書類

出願資格予備審査では、入学願書・履歴書を除いた出願書類（5 ページ参照）に加えて、下記の書類が必要です。出願資格予備審査申請書には、志望する指導教員及び志望する専攻の専攻長の確認印が必要となりますので、時間には余裕を持って書類を準備してください。

出願資格	提出書類
（7）文部科学大臣の指定した者	○出願資格予備審査申請書（本学院 HP からダウンロードすること） ○研究業績目録・主たる研究論文（コピー）（様式任意） ○研究課題・研究期間についての研究歴を証する所属長の証明書（様式任意） ○卒業証明書
（8）個別の資格審査による志願者	○出願資格予備審査申請書（本学院 HP からダウンロードすること） ○研究業績目録・主たる研究論文（コピー）（様式任意） ○研究課題・研究期間についての研究歴を証する所属長の証明書（様式任意） ○最終出身学校等の卒業証明書 ○最終出身学校等の成績証明書

②出願資格予備審査結果通知

出願資格予備審査の結果は、2025 年 6 月 3 日（火）に E メールにて通知します。出願資格を認められた者は、「4. 出願方法」に記載の「検定料納入期間」内にインターネット出願サイトから検定料を納入してください。所定の期間内に検定料を納入しない場合は、出願を無効とします。

検定料を納付した後、同サイトから入学願書等（PDF）をダウンロードし、10 ページに記載の連絡先メールアドレスまで当該 PDF ファイルを送付することで、出願手続きが完了となります。

なお、6 月 6 日（金）までに予備審査の結果通知が届かない場合は、受信先メールアドレスの迷惑メール等のフォルダに入っていないか確認した上で、連絡先までお問い合わせください。

4. 出願方法

本学院への出願は、①インターネット出願サイト(<http://e-apply.jp/e/hokudai-eng>)への登録、②検定料の納入、③出願書類の提出、これらすべてが指定の期間内に行われたことをもって完了します。

指定の期間内に全ての作業が完了しなかった場合、途中まで作業を行っていた場合であっても、一切の受付はできませんので注意してください。

《インターネット出願登録および検定料納入期間》

2025 年 6 月 9 日（月）午前 10 時から 6 月 20 日（金）午後 5 時まで

《検定料》

30,000 円

《出願書類の提出期間》

2025 年 6 月 16 日（月）から 6 月 20 日（金）まで

※郵送受付のみ。6 月 20 日（金）消印有効。

※海外からの郵便は追跡番号で発送日を確認します。

《出願書類提出先》

〒060-8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目

北海道大学工学系 事務部 教務課大学院担当

①インターネット出願サイトへの登録

一般入試及び社会人入試で出願する者はインターネット出願サイト(<https://e-apply.jp/e/hokudai-eng>)から、「日本語」を選択し、出願ページに進んでください（注：「英語」からは出願登録ができません）。その後、「はじめに」を確認した上で、「募集要項・出願する」から、画面の指示に従い出願登録を行ってください。

※インターネット出願サイトへは、本学院 HP (<https://www.eng.hokudai.ac.jp/graduate/>) の「入試情報」からもアクセスできます。

②検定料の納入

インターネット出願サイトで必要な登録作業を行った後、同サイトにて検定料を支払ってください。

支払い方法は、コンビニエンスストア、郵便局・銀行の ATM、ネットバンキング、クレジットカード、中国銀聯網決済の中から選択ができます。（支払いに際し、決済手数料 500 円が必要となります）

郵便局・銀行の「窓口」での支払いはできませんので注意してください。

支払い方法の詳細については、インターネット出願サイトをご覧ください。

【重要】現在本学大学院修士課程・専門職学位課程を修了見込みの者で、間を空けずに引き続き工学院博士後期課程に進学する者及び国費外国人留学生は検定料の納付が不要となります。該当の志願者はインターネット出願サイトで出願登録を完了した後、入金手続き前に教務課大学院担当 (k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp) 宛に E メールにて、現在の所属、学生番号、氏名を記載の上、出願登録を完了した旨をご連絡ください。

なお、既納の検定料はいかなる理由があっても返還しませんので、ご注意願います。ただし、次の場合のみ返還に応じます。

①検定料を払い込んだが北海道大学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合

②検定料を誤って二重に払い込んだ場合

（注）出願期間内に願書の提出が完了しない場合、検定料を支払っていても出願は認められませんので、検定料の支払いは余裕を持って行うようご注意ください。

③出願書類の提出

検定料の支払い完了後、インターネット出願サイトから「入学願書」・「履歴書」をダウンロード（PDF）し、それぞれをカラー印刷（両面印刷不可）した上で、出願期間内に出願書類等（5 ページ参照）とあわせて上記願書等提出先に郵送してください。※検定料の支払いが完了するまでは、入学願書等のダウンロードができませんのでご注意ください。願書等を郵送する際は、ダウンロードした PDF ファイル 4 枚目に添付されている郵送用宛名ラベルを使用して、必ず書留郵便で送付してください。

5. 出願書類等

《出願に当たっての留意事項》

出願に際しては、事前に指導を希望する教員に連絡を取ることが必要です。教員の研究分野及び連絡先等については、15 ページ以降の「指導教員及びその研究分野一覧表」及び本学院 HP で確認してください。

	提出書類	摘要
	出願書類チェック表	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。 ・下記出願書類と一緒に提出すること。
1	入学願書・履歴書	・インターネット出願完了後に出力可能となる PDF ファイルを、A4 版の用紙にカラー印刷すること。 ・出願後に転居等で連絡先を変更する場合は、教務課大学院担当に申し出ること。
2	入学願書用写真	・インターネット出願サイトにアップロードすること。なお、一旦アップロードすると、その後は向きの変更ができないため、アップロードする際の写真の向きには十分注意すること。 ・上半身脱帽、正面向。3ヶ月以内に撮影したもの。 ・写真サイズは1MB 以上、3MB 以下とすること。
3	修士論文の概要又は 修士課程における研究等の概要	・様式任意。A4 判用紙1～2枚程度 ・2026 年3月までに修士の学位又は専門職学位を授与される見込みの者及び外国の大学において基礎力審査に相当するものに合格した者は、修士論文概要に代えて、「研究の経過の概要」(A4 判用紙2枚程度で様式任意)を提出すること。 ・出願資格(7)及び(8)により出願する者は提出不要。
4	受験票送付用封筒	・長形3号(長3)封筒(120mm×235mm)を用意すること。 ・本学院 HP から「受験票送付用宛先ラベル」をダウンロードし、カラー印刷すること。 ・受験票送付先の住所(研究室不可)、氏名、受験専攻を記入の上、封筒に貼付すること。 ・封筒には 410 円分の切手を貼付すること。
5	可否通知用封筒	・角形2号(角2)封筒(240mm×332mm)を用意すること。 ・本学院 HP から「可否通知用宛先ラベル」をダウンロードし、カラー印刷すること。 ・可否通知送付先の住所(研究室不可)、氏名、受験専攻を記入の上、封筒に貼付すること。 ・切手の貼付は不要。
6	大学院成績証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学研究科・工学院又は情報科学院の出身者は提出不要。 ・大学院在籍歴がない者は提出不要。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は、「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・中国高等教育学生信息网(CHSI:China Higher Education Student Information)が発行する英語による成績証明書を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 - CHSI アドレス:https://www.chsi.com.cn/ ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので、時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては、出願書類として受け付けないので十分注意すること。
7	学部成績証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学部出身者は提出不要。 ・大学在籍歴がない者は提出不要。 ・高等専門学校専攻科修了者は、本科及び専攻科の成績証明書を提出すること。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は、「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・中国高等教育学生信息网(CHSI:China Higher Education Student Information)が発行する英語による成績証明書を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 - CHSI アドレス:https://www.chsi.com.cn/ ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので、時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては、出願書類として受け付けないので十分注意すること。

8	修了(見込)証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学研究科・工学院又は情報科学院の出身者は提出不要。 ・大学院在籍歴がない者及び外国の大学において基礎力審査に相当するものに合格した者は提出不要。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は、「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 ・留学生については、発行機関が原本証明した学位記のコピーによる提出も可とする。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・出願時に大学等を卒業している者は、中国高等教育学生信息网(CHSI)が発行する「中国高等教育学位在线验证报告 翻译件(英文)」(Online Verification Report of Higher Education Degree Certificate)を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 ・出願時に大学等に在学中の者は、中国高等教育学生信息网(CHSI)が発行する「教育部学籍在线验证报告 翻译件(英文)」(Online Verification Report of Student Record)を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので、時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては、出願書類として受け付けないので十分注意すること。
9	【該当者のみ提出】 博士論文研究基礎力審査に相当する審査に係る確認書	・外国の大学において基礎力審査に相当するものに合格した者のみ提出。
10	【社会人入試志願者】 研究業績等調書	・様式任意。14 ページの記載例を参考に、在職中に行った専攻分野に関する研究実績を記載すること。
11	【社会人入試志願者のうち、官公署在職者】 承諾書	・様式任意。人事等の責任者の承諾を得ていることが確認できる書類。
12	【外国人留学生のみ提出】 最終出身学校の指導教員の推薦書	・様式任意(ただし、指導教員の手書きのサインが書かれたもの)。コピーは不可。 ・本学工学研究科、工学院の出身者は不要。現在工学研究院に在籍している研究生については、研究生出願時に提出した推薦書のコピーによる提出も可。
13	【外国人留学生のみ提出】 在留カードのコピー	・本邦外に居住する外国人で本邦に上陸の日から 60 日を超えない外国人については代わりにパスポートのコピー。
14	【任意提出:環境創生工学専攻・環境循環システム専攻のみ】 TOEFL iBT, TOEIC Listening and Reading TestまたはIELTS(Academic)のスコアシート	・ TOEIC Listening and Reading Test について、デジタル公式認定証の PDF ファイルをプリントアウトしたものも出願書類として認める。

6. 試験日及び選考方法

①試験日：2025年8月19日(火)～20日(水)

試験の日時及び試験室等の詳細については、受験票の送付時に通知します。

②選考方法

専攻	選考方法
応用物理学専攻	修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する試問（口述試験・口頭試問）および出願書類の審査結果を総合して可否を決定します。 原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは、学科試験を課すことがあります。
材料科学専攻	修士の学位論文又はこれに代わるもの及び材料科学の審査（口述試験・口頭試問）、外国語の学力審査（筆答試験）、入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。
機械宇宙工学専攻	修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する試問（口述試験・口頭試問）および出願書類の審査結果を総合して可否を決定します。 原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは、学科試験を課すことがあります。
人間機械システムデザイン専攻	
エネルギー環境システム専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等、専門科目及び外国語の学力（口述試験）、入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。 原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは、学科試験を課すことがあります。
量子理工学専攻	
環境フィールド工学専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等、専門科目及び外国語の学力（筆答試験）、入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。
北方圏環境政策工学専攻	
建築都市空間デザイン専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等、専門科目及び外国語の学力（口述試験）、入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。
空間性能システム専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等、専門科目及び外国語の学力（口述試験）、入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。 原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは、学科試験を課すことがあります。
環境創生工学専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等、専門科目及び外国語の学力（筆答試験）、入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。 成績証明書の内容によって筆答試験（専門科目）を免除することがあります。 外部英語検定試験の成績によって筆答試験（外国語）を免除することがあります。
環境循環システム専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等、専門科目及び外国語の学力（筆答試験）、入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。 なお、英語圏出身の外国人志願者については、外部英語検定試験の成績によらず、外国語の筆答試験を免除する場合があります。免除対象者かどうかは、必ず出願前にお問い合わせください。

7. 合格発表

合格者の受験番号は、2025年9月5日（金）午後4時に本学院ホームページにおいて掲示発表の予定です。別に受験者全員に対し可否を通知します。

なお、入学手続きに関しては2026年2月中旬に合格者に対して通知します。

8. 入学料及び授業料

(1) 入学料 282,000 円

ただし、本学大学院修士課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学する者については入学料の納入を要しません。

(2) 2026年度前期分授業料 267,900 円（年額 535,800 円）

（注）①上記金額は予定額です。入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金が適用されます。

②入学手続き期間内に入学料を納めなければ、入学の意志がないものとして取り扱います。

③授業料を当該学期中に納付しなかった場合除籍になります。経済的理由により納付が困難な場合は、免除（猶予）申請もあります。

9. e³プログラムについて

本学院では、英語を使用言語として修士及び博士の学位取得が可能な、グローバル工学人材養成プログラムによるe³プログラム（English Engineering Education Program, 略称e³）を設置しています。

本プログラムでは、課程修了に必要な授業が英語で開講され、論文発表、研究指導なども全て英語で行われます。

プログラムへ参加を希望する場合、大学院入学試験に合格したうえで、以下のe³プログラムのホームページに示す英語力の資格を満たすことが必要です。（<http://www.eng.hokudai.ac.jp/e3/>）

参加の申し込みに当たっては、指導予定教員とよく相談をするようにしてください。

※日本人学生が、e³プログラムに参加した場合は、希望者に対して選考のうえ奨学金を給付します。

10. 在学期間の短縮による修了について

在学中の成績が優秀で十分な研究業績が認められれば、修学期間を短縮することができます。

基準等については、入学してから各専攻で確認してください。

11. 長期履修制度について

長期履修制度とは、職業を有している等の事情で、単位取得や研究指導を受ける時間に制限のある学生が、標準修業年限（博士後期課程3年）を超えて計画的に学修することを希望した場合、学生からの申請に基づき学院において審査を行い、その長期的な履修を認めることができる制度です。申請資格、申請手続き等は13ページのとおりで。なお、長期履修の申請に当たっては、事前に、指導予定教員とよく相談をしてください。

12. 注 意 事 項

(1) 入学試験当日は、受験票を必ず持参して机の上に置いてください。

(2) 出願書類等に不備がある場合は受理できませんので、誤記や記入漏れのないように注意してください。

(3) 出願に係る全ての書類は願書受理期間内に提出してください。願書受理期間終了後は、不足した書類等に係る相談は受け付けられません。

(4) 出願後はいかなる事情があっても志望の変更を認めません。

(5) 一度受理した出願書類等はいかなる事情があっても返還しません。

(6) 出願書類等に虚偽の記載が発見された場合は、入学許可を取り消すことがあります。

13. 個人情報の取扱いについて

(1) 本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人北海道大学個人情報管理規程」に基づき、保護に万全を期しています。

(2) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選考実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、⑤及びこれらに付随する業務を行うために利用します。

- (3) 各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。業務委託に当たり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部が提供されます。
- (4) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報は、合格者のみ入学後の①教務関係（学籍，修学指導等），②学生支援関係（健康管理，奨学金申請等），③授業料等に関する業務を行うために利用します。
- (5) (4) の個人情報のうち、氏名，住所に限って、北大フロンティア基金及び本学関連団体である①北海道大学体育会，②北海道大学工学部北工会からの連絡を行うために利用する場合があります。

14. その他

- (1) 入学願書を受理した者には、2025 年 7 月下旬に受験票を送付します。
- (2) 入学志願者で身体に障害のある者は、あらかじめ受験上や修学上の対応が必要となる場合があるので、2025 年 6 月 20 日（金）までに教務課大学院担当に申し出てください。

社会人入試

1. 出願の要件

出願時に教育・研究機関、会社等に勤務経験を有すること。
出願資格については、2026 年 4 月入学一般入試を参照すること。

2. 選考方法

修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する諮問及び出願書類の審査結果を総合して合否を決定する。ただし、当該専攻が必要と認めるときは、学科試験（専門科目・外国語）を課すことがあるので、事前に指導予定教員に問い合わせること。

3. 選抜試験の期日及び時間等

2025 年 8 月 19(火)～20 日(水) の間で当該専攻が指定する日時

※上記以外の事項については、一般入試募集要項を参照すること。

2025 年 4 月

北海道大学大学院工学院

《連絡先》

〒060-8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目
北海道大学工学系事務部
教務課 大学院担当
電話 (011) 706-6121
k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp

2025 年 10 月入学試験に関する要項

一般入試

1. 募集人員

専攻	募集人員	専攻	募集人員
応用物理学	若干名	環境フィールド工学	若干名
機械宇宙工学	若干名	北方圏環境政策工学	若干名
人間機械システムデザイン	若干名	建築都市空間デザイン	若干名
エネルギー環境システム	若干名	空間性能システム	若干名
量子理工学	若干名	環境創生工学	若干名
		環境循環システム	若干名

2. 出願資格

下記（１）～（８）のいずれかに該当すること。

- （１）修士の学位又は専門職学位を有する者及び 2025 年 9 月までに修士の学位又は専門職学位を授与される見込みの者
- （２）外国の大学において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2025 年 9 月までに授与される見込みの者
- （３）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2025 年 9 月までに授与される見込みの者
- （４）我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2025 年 9 月までに授与される見込みの者
- （５）国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和 51 年法律第 72 号）第 1 条第 2 項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び 2025 年 9 月までに授与される見込みの者
- （６）外国の学校、（４）の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者及び 2025 年 9 月までに認められる見込みの者
- （７）文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）
「大学を卒業し、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」及び「外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」
- （８）本学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 9 月 30 日までに 24 歳に達する者（以下「個別の資格審査による志願者」という。）

※ 上記以外の事項については、2026 年 4 月入学を参照すること。

社会人入試

1. 出願の要件

出願時に教育・研究機関、会社等に勤務経験を有すること。

出願資格については、2025 年 10 月入学一般入試を参照すること。

2. 選考方法

修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する諮問及び出願書類の審査結果を総合して可否を決定する。

ただし、当該専攻が必要と認めるときは、学科試験（専門科目・外国語）を課すことがあるので、事前に指導予定教員に問い合わせること。

3. 選抜試験の期日及び時間等

2025 年 8 月 19 日(火)～20 日(水) までの当該専攻が指定する日時

※ 上記以外の事項については、2026 年 4 月入学を参照すること。

2025 年 4 月

北海道大学大学院工学院

《連絡先》

〒060-8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目

北海道大学工学系事務部

教務課 大学院担当

電話 (011) 706-6121

k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp

長期履修の申請資格、申請手続き等について

1. 申請資格

長期履修を申請できる者は、次のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 官公庁、企業等に在職している者（給与の支給を受け、職務を免除されている者を除く。）又は、自ら事業を行っている者等フルタイムの職業に就いている者
- (2) アルバイト、パートタイム等の職業に就いている者で、学院において、その負担により修学に重大な影響があると認めたもの
- (3) 学院において、育児、親族の介護等前2号に準ずる負担により、修学に重大な影響があると認めた者
- (4) 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由その他の障害を有している者で、学院において、その障害により長期にわたり修学に重大な影響があると認めたもの

2. 申請の手続き

長期履修を申請する者は、次の(1)～(4)の書類を入学願書に添えて提出してください。

申請書用紙の請求については、教務課大学院担当までご連絡ください。

- (1) 長期履修申請書及び理由書
- (2) 履修計画書
- (3) 長期履修が必要であることを証明する書類等
- (4) 障害者手帳又は医師の診断書（上記1. 申請資格(4)に該当する者のみ提出）

3. 可否の通知

申請書類に基づき審査のうえ、可否を決定し、9月中旬に通知します。

4. 在学期間

長期履修学生として在学することを認められる期間は、1年を単位とし、博士後期課程にあつては4年から6年までとなります。

なお、各年度の修了月は、9月又は3月となっていますので、長期履修申請書に長期履修計画年数を記入してください。

5. 授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を許可された在学期間の年数で除した額となります。（授業料の改定時期によっては、修了までの納入予定総額が当初の予定より増額することがあります。）詳しくは、教務課大学院担当にお問い合わせください。

6. 在学期間の短縮または延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学する課程において、1回に限り期間の短縮又は延長を申請することができます。

(1) 在学期間の短縮

長期履修期間の短縮を認めることのできる期間は、博士後期課程にあつては、6年から5年への短縮、5年から4年への短縮の場合です。

長期履修期間の1年短縮を希望する場合は、長期履修期間が終了する日の2年前（博士後期課程において2年短縮を希望する場合は、3年前）までに「長期履修期間変更願」を提出し、許可を得なければなりません。

(2) 在学期間の延長

長期履修学生は、在学期間の延長をすることができます。

在学期間の延長を希望する者は、当初の長期履修期間が終了する日の1年前までに「長期履修期間変更願」を提出し、許可を得なければなりません。

なお、在学期間は、博士後期課程6年を超えることができません。

- (3) 在学期間の短縮又は延長の場合の授業料は、再計算されますが、いずれも在学期間に応じ過不足の調整がなされますが、既納の授業料は返還されません。

7. その他

長期履修の申請は、入学時のほかに、2年次・3年次進級時にも行うことができます。ただし、その場合、授業料の総額が、入学前に長期履修を申請した場合に比べ増額となりますので、ご注意願います。（最終年次での申請はできません。）不明の点については、教務課大学院担当までご連絡ください。

「博士後期課程（社会人入試）志願者の研究業績等調書」記載例

1. 志願者

〇〇〇〇〇 (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生 (〇〇才))

現 住 所 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

2. 志願専攻名 ◎◎◎◎専攻

3. 指導予定教員

〇〇〇〇〇教授 (〇〇〇部門〇〇〇講座)

4. 学歴等

〇〇年〇〇月 〇〇〇〇〇〇〇高等学校卒業

※高等学校卒業以降の学歴について、入学と卒業（修了）の順で記載してください。

5. 職歴

〇〇年〇〇月 〇〇〇〇〇会社〇〇〇部に入社

〇〇年〇〇月 〇〇〇〇〇会社〇〇〇研究所に〇〇〇として勤務

〇〇年〇〇月 〇〇〇〇〇大学〇〇〇学部〇〇として勤務

6. 研究歴

〇〇年〇〇月 〇〇〇〇〇会社〇〇〇研究所において〇〇〇〇の研究に従事

〇〇年〇〇月 〇〇〇〇〇大学〇〇〇学部において〇〇〇〇の研究に従事

7. 研究業績（該当の無い項目には「無し」と記載）

1) 学会誌発表論文（論文題名、全著者名、雑誌名、巻号、掲載頁（最初～最後）、発行年）

（注：レフェリー制のあるジャーナル誌に掲載されたもの）

2) 上記1) に準ずるその他の論文（論文題名、全著者名、雑誌名、巻号、掲載頁（最初～最後）、発行年）

3) 研究報告（報告題名、全報告（著者）名、報告書名、巻号、掲載頁（最初～最後）、発行年）

4) 学術講演（演題名、全講演（著者）名、学会等名、開催場所、開催年）

5) 学会活動

6) 特許（出願名、出願者名、出願年）

8. 研究計画 * 指導予定教員と相談のうえ作成のこと。

1) 研究課題

2) 研究の概要

3) 在学予定期間 (〇〇年〇〇月～〇〇年〇〇月まで〇〇年間)

4) 修学予定条件

i. 研究指導（例：年〇週間／月〇〇日／週〇日程度来学し、研究指導等を受ける）

※研究指導に必要な時間の考え方

1日6時間として、3年間で修了する場合2週間以上のスクーリングを目安としている。

ii. 研究指導計画等の概要

iii. 履修授業科目（例：◎◎◎◎特別研究 6単位と、〇〇特論、〇〇特論等計4単位を課す、Eラーニングを利用して受講。など）

指導教員及びその研究分野一覧表

2025年5月1日 現在
北海道大学大学院工学院

専攻	講座	教 員		研究 分野	備 考	
	量子 物 性 工 学	教 授	浅 野 泰 寛	量子輸送現象, トポロジカル超伝導, 超伝導現象論		
		教 授	鈴 浦 秀 勝	物性理論, 特に, 電子系の量子輸送現象と光学応答の理論		
		助 教	江 上 喜 幸	ナノ構造の電子物性, 電子輸送現象, 第一原理シミュレーション		
		教 授	市 村 晃 一	超伝導, 電荷・スピン密度波, 量子トポロジエリ工学, 低次元電子物性, 低温物性, 超薄膜物性, 走査トンネル顕微鏡/分光, 分子線エビタキシー		
		准教授	黒 澤 徹			
		助 教	迫 田 将 仁			
		教 授	松 田 理	超短パルスレーザーによるナノスケール超音波発生・検出, 表面弾性波の可視化, 固体中の超高速の電子・熱拡散, 音響メタマテリアル, 力学系メタマテリアル, プラズモニクス, トポロジカフオニクス, 有機導体の超高速電子ダイナミクス, 極低温・高圧下時間分解分光開発		
		准教授	土 屋 聡			
		凝 縮 系 物 理 工 学	教 授	野 村 竜 司		超流動, 量子液体, 量子固体, 低温物理学
			准教授	高 倉 洋 礼		結晶物理学, 回折結晶学, 準結晶の構造と物性, 複雑構造合金結晶, 非周期結晶構造解析, 金属磁性と電子輸送
	助 教		柏 本 史 郎	ナノバイオテクノロジー, 単原子・ナノイメージング, グラフエン, 高分解能電子顕微鏡, 水・氷・クラスレート, 結晶成長, ナノバブル, 細胞凍結保存		
	准教授		内 田 努			
	助 教		山 崎 憲 悠			
	光 波 動 量 子 物 理 工 学	教 授	森 田 隆 二	非線形光学, 非線形レーザー分光, 光満(位相特異性をもつ光)・軸対称偏光(偏光特異性をもつ光), 光マニピュレーション, チャープパルス増幅		
		准教授	山 根 啓 作	光干渉計測, 波長制御レーザーによる精密長と測定, レーザレーダ		
		助 教	覚 間 誠 一			
		教 授	足 立 智	固体光物性, 半導体量子ナノ構造のスピン物性, スピンダイナミクスのコヒーレント制御, 核スピン分極制御, 希土類添加結晶での量子メモリ開発		
		准教授	銀 治 怜 奈	超高速光科学, 高光電場物理, アト秒科学, 光化学反応ダイナミクス		
		准教授	関 川 太 郎			
		教 授	長 谷 川 祐 司			量子力学実験, 量子光学, 中性子光学, 量子基礎論
固 体 量 子 物 理 工 学	准教授	小 林 淳	冷却原子, レーザー冷却, 極低温分子, 精密分子分光, 量子縮退気体, 狭線幅レーザー			
	准教授	小布施 秀 明	開放量子系, 非エルミート系, 量子ウォーク, トポロジカル相, 不規則系の物理に関する理論			
	講 師	水 野 誠 司	ナノスケール構造におけるフォノン, 電子輸送現象, 電子・フォノン相互作用, フォノニック結※品, NEMS, ナノワイヤー・超格子, 音響メタマテリアル, フォノ共鳴, 連続体中の束縛状態(BIC)			
	教 授	戸 田 泰 則	超伝導体・半導体の光物性および光制御, 時空間分解分光開発と光物性探索応用			
	准教授	土 家 琢 磨	※半導体ナノ構造の理論, 特に励起子及びその複合体, スピンエレクトロニクス			
	准教授	笹 倉 弘 理	量子通信, 半導体量子ナノ構造の光物性, 量子光学, エビタキシャル成長			
	助 教	白 峰 賢 一				
	ナ ノ 物 理 工 学	教 授	松 尾 保 孝	金属ナノ構造の光物性, プラズモン誘起電荷移動ダイナミクス, 光エネルギー変換, 表面・界面化学, メタサフェース, バイオメテックス, 半導体微細加工・質量分析		
	准教授	石 旭				
	材 料 科 学	エ コ マ テ リ ア ル	特任教授	岩 井 一 彦	電磁場, 超音波を利用した材料プロセス, 結晶配向, 新規鍛造プロセス	
教 授			菊 地 竜 也	アノード酸化(陽極酸化)を用いた自己規則化ナノマテリアルの創製, 高速超親水・滑着性制御型超撥水金属材料の開発, ナノ構造の最適設計による機能性金属材料の創製, 水滴発電機の開発, 持続可能な湿式金属リサイクル技術の開発		
			教 授	上 田 幹 人	溶融塩・イオン液体化学, 電解製錬工学, 金属資源リサイクル, 金属表面反応の分光学的その場測定, 腐食防食工学, 自動車用燃料電池の応用工学, 次世代Li電池開発, 核融合に向けた水素同位体分離	
准教授		松 島 永 佳				
マ テ リ ア ル 設 計		教 授	三 浦 誠 司	次世代材料(金属間化合物基耐熱合金, 軽量MgおよびAl合金, 強靱セラミックス材料, 構造用鉄鋼材料)の機械的・物理的性質(材料物性・材料強度・相安定性)の実験的探求と, 第一原理計算やコンピュータシミュレーションも用いた理論構築		
		准教授	池 田 賢 一	材料組織学, 計算材料科学, 凝固工学, データ科学, 構造用金属材料, 組織形成モデリング, 原子シミュレーション		
		教 授	大 野 宗 一			
		教 授	米 澤 徹		※半導体産業向け材料の開発, ナノ材料の合成・物性評価・応用開発, エコナノ材料の設計と構築, 導電ペーストの開発, 金属微酸化粉, 電子顕微鏡開発, エネルギー輸送ナノ材料開発, 2次電池材料開発, 金属材料の環境劣化, 酸化物皮膜の微細構造解析学, レーザー照射・AFMによる微細加工, 新規電界コンデンサ・セラミックスコンデンサの開発, 有機・無機複合材料, 光化学と人工光合成, 新規金属空気電池の実用化	
准教授		坂 入 正 敏				
エ ネ ル ギ ー 材 料		助 教	Nguyen Thanh Mai	高エネルギー粒子照射による材料の損傷, エネルギー炉用材料の照射下安定性評価, 核融合炉材料の開発, 水素吸蔵材料の開発, 水素化特性の微視的解析, 水素利用安全技术開発, 新規ハイエントロピー合金の開発		
		教 授	橋 本 直 幸			
		准教授	磯 部 繁 人	高温かつ過酷環境下における耐熱合金・コーティングの開発, 発電ボイラー, ガスタービン, 化学プラント等に用いられるNi, Fe, Co基の高温材料やコーティングの高温腐食, 機械的特性向上に関する基礎的・応用的研究		
		准教授	岡 弘			
		教 授	林 重 成			
エ ネ ル ギ ー 変 換 マ テ リ ア ル		准教授	上 田 光 敏	高分解能電子顕微鏡, 電子エネルギー損失分光, 第一原理計算, 物質の原子・電子構造, 機能材料設計, 二次元材料, 水素関連材料		
		准教授	米 田 鈴 枝			
		教 授	坂 口 紀 史	光反応科学とナノ材料, 光エネルギー及び熱エネルギー変換材料の開発と評価, 太陽電池, 熱電素子, 光触媒材料		
		准教授	國 貞 雄 治			
		教 授	渡 辺 精 一	CVI製鉄, 水素製造・貯蔵・輸送, 電池材料合成, 燃焼による材料合成, 蓄熱技術, エクセルギー解析, エコ・コンビナート設計		
		准教授	沖 中 憲 之			
	准教授	張 颺 華				
マ テ リ ア ル 製 造 (連 携 講 座)	教 授	能 村 貴 宏	鉄鋼製造プロセスに関する研究	(JFEスチール(株)) (日本製鉄株式会社)		
	客員教授	野 内 泰 平				
	客員教授	堀 本 雅 之	軽水炉用事故耐性燃料(ATF)及び原子炉構造材料の開発研究			
	客員教授	山 下 真 一 郎			高速炉の炉心材料開発, 中性子照射や熱時効が強度特性に及ぼす影響	
	客員准教授	矢 野 康 英				压力容器用高強度鋼・高張力鋼の開発研究
客員教授	茅 野 林 造	压力容器用高強度低合金鋼の開発及び鋼の水素脆化に関する研究				
客員准教授	高 澤 孝 一					

注2) ※を付した教員は2026年春退職予定。ただし、そのうち特任教員以外の教員は、引き続き1年または2年間に在職する場合があります。

専攻	講座	教 員		研究分野	備 考			
機械宇宙工学	宇宙システム工学	教授 助教	永田 晴 紀 脇 田 督 司	宇宙工学, ロケットシステム, 宇宙機器設計, ミッション解析				
		教授 助教	橋 本 望 金 野 佑 亮	微小重力場における燃焼現象, 宇宙環境利用技術, 代替燃料燃焼, 燃焼不安定性, バイオマス由来燃料の燃焼, 火災物理科学, 反応性熱流体数値シミュレーション, 燃料液滴の蒸発現象				
		特任教授 准教授	大 島 伸 行 寺 島 洋 史	数値シミュレーション, 乱流, 反応流, 気液混相・超臨界流, 航空機空気力学, 自動車空気力学, ガスタービン・ロケット燃焼器, 流体構造連成問題				
		准教授	高 橋 裕 介	宇宙工学, 高速流体・高温気体力学, 大気再突入問題, 流体構造連成問題, 数値解析				
		教授 准教授 准教授	渡 部 正 夫 小 林 一 道 藤 井 宏 之	蒸発・凝縮機構に関する分子動力学及び分子気体力学を用いた解析, 気泡力学, 固体表面への液滴衝突, 界面における輸送現象, 生体や農産物における光・輻射の輸送現象				
	機械フロンティア工学	准教授	高 橋 航 圭	複合材料のマイクロメカニクス, 接着・粘着現象の界面強度, 高分子材料の粘弾性・疲労, 力学的駆動力による微細組織制御, 有限要素法による応力解析, 材料試験システムの開発				
		教授 教授 准教授	佐 藤 太 裕 藤 村 奈 央 加 藤 博 之	材料力学, 構造力学, 弾性力学, 構造安定論, 構造形態学, ナノメカニクス, プラントメティクス, 振動を利用した表面改質, 金属材料の疲労				
		客員教授	菊 池 政 雄	宇宙環境利用工学, 宇宙実験技術, 微小重力利用燃焼研究, プロジェクトマネジメント, システムズエンジニアリング				
		客員准教授	松 山 新 吾	数値シミュレーション, 燃焼流, 乱流, 熟化学非平衡流, 極超音速流, 乱流燃焼, ロケット・ガスタービン燃焼器, 大気圏突入				
		客員准教授	丸 祐 介	宇宙飛翔体システム, 宇宙推進システム				
宇宙探査工学 (連携講座)					((国研)宇宙航空研究開発機構)			
人間機械システムデザイン	バイオ・ロボティクス	教授 准教授	東 藤 正 浩 山 田 悟 史	バイオメカニカルデザイン, 生体骨のバイオメカニクス, 整形外科バイオメカニクス, バイオマテリアル, 生体機械システム工学, X線材料強度学				
		教授 准教授	清 水 裕 樹 江 丸 貴 紀	超精密計測・制御, 光計測・制御, 表面形状計測, 高機能表面創成, センサ, ロボティクス・ダイナミクス, ロボット構造解析と制御, 機械システムの動特性解析と運動制御, 自律ロボットのナビゲーション, ドローンによるインフラ点検, 雪道環境における自動運転技術の開発, 農業支援ロボット				
		教授 准教授 助教	梶 原 逸 朗 原 田 宏 幸 米 沢 平 成	知的構造システム, スマート構造, レーザー応用振動試験, 制御技術の産業応用, ロボティクス, 移動ロボット機構, バイオメティクス				
		教授 特任准教授	戸 谷 剛 山 田 雅 彦	超小型衛星の熱設計・熱制御機器, 宇宙用ラジエータ, 放射の波長制御, 混相流, 非ニュートン流体の熱・輸送物性, 水スラリーの流動・相変化現象				
		教授	大 橋 俊 朗	生体工学, バイオメカニクス, バイオエンジニアリング, バイオMEMS, バイオチップ, 細胞・組織バイオメカニクス, 医用生体工学, 計算バイオメカニクス, 整形外科バイオメカニクス, 植物バイオメカニクス, 微小重力空間バイオメカニクス				
	マイクロシステム	特任教授 准教授 助教	佐々木 克 彦 本 田 真 也 武 田 量	変形制御学, 非線形構成理論, パラメータ最適化構造解析, 医療用デバイスの最適設計, 血管に関わる構造-流体連成解析, 複合材料構造および機械構造の最適設計, 複合材の新規製造法の開発, スマート構造の振動制御, 機械学習の応用, 膝関節靱帯組織の力学測定, 膝関節運動解析				
		客員教授 客員准教授	横 田 秀 夫 金 内 智 子	バイオモデリング, 生体の力学特性計測, バイオイメージング, 医用画像工学, バイオシミュレーション 画像処理, 画像認識, 画像処理システム, バイオイメージ・インフォーマティクス				
		バイオメディカルシミュレーション (連携講座)					国立研究開発法人理化学研究所	
			エネルギー生産・環境システム	教授 准教授		千 葉 豪 藤 田 達 也	原子炉炉心設計, 原子炉物理, 放射線輸送計算	
				特任教授 准教授		澤 和 弘 河 口 宗 道	新型炉安全設計, 核分裂生成物移行挙動, 核燃料工学, セラミックス材料 高速炉安全性, シビアアクシデント, ソースターム, 原子力材料特性	
教授 教授	小 崎 完 渡 邊 直 子			放射性廃棄物処理処分の安全評価, 原子炉材料科学, 核燃料工学, 原子炉廃止措置, 環境放射能				
特任教授	中 島 宏			放射線遮蔽, 放射線物理学, 放射線防護, 放射線および原子力施設の安全管理, 核物質防護, 軽水炉再稼働支援, 廃炉及び福島復興支援				
教授 准教授	田 部 豊 植 村 豪	熱エネルギー変換及び利用工学, 反応を伴う熱物質移動の解析制御, 環境低負荷型エネルギーシステム, 燃料電池, 大容量二次電池, リチウム空気電池						
応用エネルギーシステム	教授 教授 助教	村 井 祐 一 田 坂 裕 司 朴 炫 珍	流体力学: 流れの不安定性, 乱流遷移, 複雑流体のレオロジー 流体計測: 超音波と光による流れ場の時空間測定, 超音波センシング, レオメトリ 流体工学: 船舶の抵抗低減, 混相流の制御, 風洞実験, 複雑流動の予測					
	准教授	柴 田 元	カーボンニュートラルエネルギー, 液体合成燃料, エンジンシステム工学, 高性能エンジン					

注1) 助教は博士後期課程の指導教員になることができません。

注2) ※を付した教員は2026年春退職予定。ただし、そのうち特任教員以外の教員は、引き続き1年または2年間在職する場合があります。

専攻	講座	教 員		研究分野	備 考		
量子理工学	応用量子ビーム工学	教授 助教 准教授	大 沼 正 人 平賀 富士夫 金 子 純 一	中性子・X線による物質・材料研究 放射線計測学, 耐放射線性半導体デバイス開発, 廃炉工学			
	プラズマ理工学	教授 准教授	松 浦 妙 子 宮 本 直 樹	粒子線治療工学, 放射線医学物理学, 医用画像工学			
		教授 准教授	加美山 隆 佐 藤 博 隆	中性子イメージング, 加速器中性子源, 中性子デバイス, 中性子実験装置, X線融合, 量子ビームによる材料研究, 宇宙線中性子ソフトウェア			
		教授 助教	富 岡 智 二 山 内 有 二 松 本 裕	※ プラズマ・ビーム電磁界解析, 逆問題解析, 非破壊診断, プラズマ生体相互作用, 核融合工学, プラズマ表面相互作用, 真空工学			
		教授 准教授	佐々木 浩 一 白 井 直 機	プラズマ計測, プラズマ応用工学, プラズマナノ科学, プラズマ環境工学, レーザーアブレーション			
		助教	信 太 祐 二	核融合炉材料, 水素吸蔵, 表面改質, 照射損傷			
		准教授	富 田 健太郎	プラズマ計測, プラズマエレクトロニクス, プラズマX線源, レーザー生成プラズマ			
	物質構造科学 (連 携 講 座)	教授 助教	柴 山 環 樹 中 川 祐 貴	量子ビームによるナノ材料の創成と物性の評価, 複合量子ビーム超高圧電子顕微鏡, 非平衡材料科学, 量子ビーム利用材料, ナノ材料創製, 原子炉材料, 核融合炉材料, 透過電子顕微鏡による微細構造解析, メカノケミストリー, 水素貯蔵材料		エネルギー・マテリアル融合領域研究センター(量子エネルギー変換材料)	
		客員教授 客員教授	熊 井 玲 児 森 一 広	パルス中性子及び放射光によって物質の構造とダイナミクスを調べることににより, 物質の機能発現や生命現象の本質に迫る		(大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構)	
	核融合科学 (連 携 講 座)	客員教授 客員准教授 客員准教授	Peterson Byron Jay 田 中 照 也 本 島 巖	核融合プラズマ物理, プラズマ計測工学, 核融合炉工学		(大学共同利用機関法人 自然科学研究機構)	
	環境フイールド工学	水圏環境工学	准教授 助教	岩 崎 理 樹 田 中 岳		河川工学, 水工学, 土砂水理学 水文学(流出解析・洪水予測), 防災工学・教育(教育実践・教材開発)	
		防災地盤工学	教授 教授 助教	泉 典 洋 山 田 朋 人 宮 本 真 希		河川工学, 河川環境工学, 水工水理学, 水文気象学, 大気陸面相互作用, 地球水循環システム	
教授 教授			渡 部 靖 憲 猿渡 亜由未	海岸工学, 流体力学 海岸工学, 海洋気象学			
教授 教授 助教			渡 部 要 一 西 村 聡 福 田 文 彦	人工・自然地盤物性学, 地盤安定・変形の評価・対策, 都市防災地盤工学, 海岸・沿岸域等のフロンティア地盤開発			
教授 准教授 助教			石 川 達 也 磯 部 公 一 横 濱 勝 司	寒冷地地盤防災工学, 交通地盤工学, 土・水マルチフィジックス解析 地盤耐震工学, 地盤と構造物基礎の相互作用, 地盤防災工学 建設廃材のリユース, 地盤補強工法, 地盤温度の活用による発電			
教授 准教授			杉 山 隆 文 橋 本 勝 文	構造材料工学, 環境コンクリート工学, 高性能コンクリート構造学			
寒冷地建設工学			教授 准教授	宮 森 保 紀 北 原 優	構造工学, 地震工学, 構造動力学, 構造モニタリング 構造信頼性, データ科学, 構造工学, 地震工学	長井:公共政策学連携研究部 (博士後期課程のみ担当)	
技術環境政策学			教授 准教授 助教	松 本 高 志 古 川 陽 佐 倉 亮	橋梁工学, 鋼構造, 複合材料・構造, 構造設計・維持管理 応用力学, 計算力学, 弾性波動論, 非破壊評価 橋梁工学, 鋼構造, 構造工学, 構造設計, 維持管理		
			教授 准教授 助教	長 井 宏 平 松 本 浩 嗣 古 内 仁	構造工学, 微細構造解析, 成熟社会インフラマネジメント, 国際協力 維持管理工学, コンクリート構造学, 構造解析 ※維持管理工学, 複合構造工学, コンクリート構造学		
			教授 助教	内 田 賢 悦 峪 龍 一	交通ネットワーク解析学(自動運転, 公共交通, 交通データ解析), 都市経済学, インフラマネジメント計画, 防災計画, 政策評価, 不確実性下の意思決定論		
			教授 教授 教授 助教	高 野 伸 栄 岸 邦 宏 吉 井 稔 雄 高 橋 翔	※インフラストラクチャプランニング, コンストラクションマネジメント, モビリティマネジメント 交通計画, 交通工学, 都市計画, リスク・マネジメント, 合意形成 交通工学, 交通マネジメント, 事故リスク解析, 交通計画 画像・映像解析, 道路・交通モニタリング, 交通工学, 情報工学応用, AI・ICT・IoT		

注1) 助教は博士後期課程の指導教員になることができません。

注2) ※を付した教員は2026年春退職予定。ただし, そのうち特任教員以外の教員は, 引き続き1年または2年間に在職する場合があります。

専攻	講座	教 員		研究分野	備 考			
建築都市空間デザイン	空間防災	教授 准教授	岡崎 太一郎 松 井 良 太	建築構造, 耐震構造, 鋼構造, 地震工学				
	特任教授 准教授 助 教	菊 地 優 白 井 和 貴 越 川 武 晃	免震構造, 耐震工学, 地震工学, 環境振動, 制振(震)構造, 振動制御, 振動台実験, 非線形動的挙動, 損傷制御, 鉄筋コンクリート構造					
	教授 准教授	高 井 伸 雄 中 嶋 唯 貴	地震工学, 強震動地震学, 都市防災学 地震工学, リスクアセスメント, 人的被害, AI・ICT・IOT防災, 防災モニタリング, 深層学習の防災の応用					
	空間計画	特任教授 准教授 助 教	小 澤 丈 夫 角 哲 内 藤 誠 人	建築意匠, 建築設計, 都市空間デザイン, 建築史, 歴史的建築物の保存活用				
	教授 准教授	森 傑 野 村 理 恵	建築計画, 都市計画, 環境行動デザイン, ユニバーサルデザイン					
	教授 准教授	瀬戸口 剛 渡 部 典 大	都市計画, 都市再生計画, 都市地域デザイン, 田園景観, コミュニティデザイン, 都市地域まちづくり					
	空間性能システム	建 築 シ ス テ ム	准教授 助 教	若 林 斉 李 相 逸		環境人間工学, 環境生理学, 環境適応, 生理人類学, 環境行動心理, 職・住環境マネジメント		
			准教授 助 教	葛 隆 生 劉 洪 芝		環境システム工学, 再生可能エネルギー有効利用, 空気調整工学, ゼロエネルギー建築		
			教授	森 太 郎		建築環境学, 建築設備, 北極圏域研究		
			教授 准教授	平 野 陽 子 松 島 潤 平		木造建築, 木質構造, 木質材料, 木材利用, 森林資源 建築設計, 建築意匠, 空間デザイン, インテリアデザイン, ランドスケープデザイン		
			准教授	菊 田 弘 輝		環境空間デザイン学, 建築衛生, サステイナブル建築		
			教授 助 教	濱 幸 雄 石 井 建		建築構造学, 性能設計, 免震		
教授			北 垣 亮 馬	建築材料科学, コンクリート化学, 建設系高分子物理				
環境創生工学			環 境 管 理 工 学	教授 准教授	岡 部 聡 押 木 守	生物学的水処理工学, 環境微生物工学		
				教授 准教授	木 村 克 輝 羽 深 昭	環境衛生工学・水処理工学, 下水道工学, 排水再利用, 排水からの有価物回収		
				教授 准教授	松 下 拓 白 崎 伸 隆	環境リスク工学, 上水道工学, 水処理工学		
	教授 助 教	佐 藤 久 中 屋 佑 紀		水質・生態環境解析, 水処理工学, 分析化学				
	教授 准教授	東 條 安 匡 黄 仁 姫		廃棄物の熱処理・最終処分・リサイクル, 除染廃棄物・災害廃棄物処理				
	教授	石 井 一 英		循環共生システム, バイオリサイクル, 廃棄物管理, 合意形成, 脱炭素, 土壌・地下水汚染				
	特任助教 助 教 助 教	山 形 定 深 澤 達 矢 田 鎖 順 太		森林バイオマスの管理と活用, 地域社会における自然エネルギー活用, 騒音・低周波音の健康影響評価				
	環境循環システム	資源循環工学		教授 助 教	大 竹 翼 菊 池 亮 佑	応用地質学, 環境鉱物学, 地球化学, 鉱床学, 地質材料の評価・利用, 廃棄物の地層処分, 地球と生命の共進化	(大竹: 博士後期課程のみ担当)	
教授			佐 藤 努	鉱物材料の評価・利用, 二酸化炭素のネガティブエミッション技術, 放射性廃棄物の地層処分, 有害廃棄物の安定化処理・処分				
准教授			胡桃澤 清 文	建設廃棄物の資源化・リサイクルシステム, 建設材料学, 無機材料化学, 計測法の開発と情報処理				
教授 准教授			伊 藤 真 由 美 PARK ILHWAN	資源再生工学(廃棄物の資源化・リサイクルなど), 資源処理(未利用資源・難処理資源の活用と高付加価値化), 環境保全修復, 選鉱・製錬				
地 圏 循 環 工 学		教授	廣 吉 直 樹	資源分離精製, 金属製錬, 反応工学, モデリング, 界面化学, 電気化学	(廣吉: 博士後期課程のみ担当)			
		教授 特任教授 准教授	川 村 洋 平 児 玉 淳 一 大 友 陽 子	資源情報学, スマートマイニング, 資源開発工学, 鉱山工学, 採鉱工学, 地下インフラ構築, トンネル工学, 推進工法	(川村: 博士後期課程のみ担当) (児玉: 博士後期課程のみ担当)			
		教授 准教授	川 崎 了 福 田 大 祐	岩盤工学, 発破工学, トンネル工学, 岩盤斜面工学, 大深度地下利用, ビーチロック, バイオセメント, 地盤環境工学, 生物地盤工学, 数値解析(破壊過程解析, 連成解析, 大規模計算)	(博士後期課程のみ担当)			
		特任教授	藤 井 義 明	資源環境工学, 資源開発工学, 岩盤工学				
		教授 准教授	ヨカラシ'ャ エラクネス 原 田 周 作	反応工学, 化学モデリング, 地球化学, 界面化学, 建設材料設計, 石油工学, CO2キャプチャー 流体力学, 移動現象, 混相流				
		教授	中 島 一 紀	生物工学, 環境浄化, 有価金属回収, バイオミネラル, バイオミメティクス, 機能性バイオ材料				
		環境リスク評価学 (連 携 講 座)	客員教授	保 高 徹 生	環境リスク学, 地盤環境工学, サステナブル・リメディエーション(持続可能な環境修復), リスクコミュニケーション, 社会経済影響評価, 感染症対策, サーキュラーエコノミー, ネイチャーボジティブ	国立研究開発法人産業技術総合研究所		
		共同資源工学 (修士課程のみ)	国際資源環境工学	教授	廣 吉 直 樹	資源分離精製, 金属製錬, 反応工学, モデリング, 界面化学, 電気化学		
教授 特任教授				川 村 洋 平 児 玉 淳 一	資源情報学, スマートマイニング, 資源開発工学, 鉱山工学, 採鉱工学, 地下インフラ構築, トンネル工学, 推進工法			
教授				大 竹 翼	応用地質学, 環境鉱物学, 地球化学, 鉱床学, 地質材料の評価・利用, 廃棄物の地層処分, 地球と生命の共進化			
特任教授				藤 井 義 明	資源環境工学, 資源開発工学, 岩盤工学			
助 教				有 馬 孝 彦	土壌地下水汚染, 坑廃水, 地盤環境工学, 地下水工学, 環境修復			
助 教				高 野 力	生物工学, 環境浄化, 有価金属回収, バイオミネラル, バイオミメティクス, 機能性バイオ材料			

注1) 助教は博士後期課程の指導教員になることができません。
注2) ※を付した教員は2026年春退職予定。ただし、そのうち特任教員以外の教員は、引き続き1年または2年間に在職する場合があります。